

がんのある・あった学生支援に関する国立大学への調査報告

新平鎮博*・土屋忠之**・深草瑞世**

(*情報・支援部) (**インクルーシブ教育システム推進センター)

要旨：本稿では、「がんのある・あった」学生に対する高等教育機関での教育支援について、国立大学（大学院のみを除く79校）を対象に調査を行った。調査内容は、独立行政法人日本学生支援機構（以下、JASSOと略す）が毎年行っている「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」の内容より関連する部分の項目（支援体制、活動や取組み、入試に関する配慮）を抜粋し、また「がんのある・あった」学生支援に関する課題及び研究成果に対する期待についてである。結果56校（71%）から回答があった。支援体制や入試については、他の障害や病気のある学生への配慮等と大きな差はないが、活動や取組み（就職ガイダンス等）は、「がんのある・あった」学生に対する事例が少ないことや経験がないという回答も含めて、JASSOの全体の調査より低い傾向であった。医療の進歩により、がん患者の生存率は向上しているため、「がんのある・あった」学生は、今後、増加すると考えられるが、学生の申し出により、既存の障害や病気のある学生への支援体制を利用できる可能性があることから、がんに特化した専門的な情報を医療機関や研究機関が、大学等にも提供していく必要があるということが示唆できた。

見出し語：がん患者、AYA世代、大学、障害学生支援

I. はじめに

国立特別支援教育総合研究所（以下、研究所）の病弱教育研究班では、国立成育医療研究センターとの共同研究「小児がん患者の医療、教育、福祉の総合的な支援に関する研究」（平成26～27年度）を実施して、その研究成果は研究成果報告書と平成27年度の特総研ジャーナルに報告した。また、この研究で、課題であった高校生の教育については、平成27年度より、厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究（H27-がん対策一般-005）」の分担研究も含めて実施し、平成28年度の本特総研ジャーナルにも報告している。引き続き、同研究（H28-がん対策一般-005）により、AYA世代のがん患者の教育支援に関する実態把握を目的に、大学等の高等教育機関における学生支援について、国立大学を対象に調査研究を実施したので報告する。

II. 方法

1. 調査対象

調査対象として、国立大学（大学院のみを除く）79校とした。

2. 調査手続き及び調査期間

郵送による質問紙調査を行った。本調査の実施に当たり、国立大学の障害学生支援及び入試の配慮の担当部署に対して依頼文章と調査研究の趣旨説明文章を送付し、同意が得られる場合に回答を依頼した。調査票は、平成27年8月に送付し、同10末日までの回答を依頼した。

3. 調査内容

調査票は、結果で示す次の4項目について、選択式（複数回答）による回答内容である。なお、下記（1）～（3）は、独立行政法人日本学生支援機構（以下、JASSOと略す）が毎年行っている「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」の内容より、関連する部分の項目を抜粋し、（4）は新たに設定した内容である。以下に示す調査内容は、「がんのある・あった学生」に関する内容としており、回答時には、

がんの特化した内容ではなく、他の障害学生への対応でも可能な場合を含めている。

1) 支援体制

- (1) 支援に関する専門委員会等
- (2) 支援担当部署 (担当部署)
- (3) を受け入れるための施設・設備
- 2) 活動や取組 (就職支援, キャリア教育を含む)
- 3) 受け入れ (入試) に関する配慮
- 4) 課題及び研究成果に対する期待

なお、JASSOの調査については、毎年実施されており、障害学生に対する支援は、拡充されているが、本調査の行った平成27年度の調査結果との比較とした。

Ⅲ. 結果

国立大学79校を対象に郵送による調査を行ったが、56校(71%)回収できた。以下、頻度については、回答のあった56校を母数とした。

1. がんのある・あった学生支援体制

「がんのある・あった」学生に関する専門委員会等、図1に示したように、「対応できる専門委員会はない」3大学(5%)、「がんのある・あった」学生に対する支援担当部署は、図2で示したように、「担当できる部署はない」2大学(4%)、「がんのある・あった」学生に対応する専任支援担当者は、図3で示したように「担当者はない」6大学(11%)であった。「がんのある・あった」学生を受け入れるための施設・設備については、「がんのある・あった」学生のために準備した施設・設備があると回答した大学はなく、「他の病気や障害学生の施設・設備を利用する」としており、「どのような施設が必要かわからない」等の意見も記載されていた。

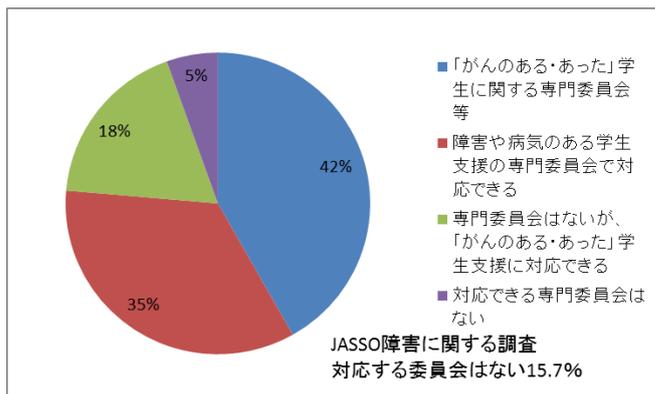


図1 「がんのある・あった」学生に関する専門委員会等 (JASSOの関連するデータの一部を記載)

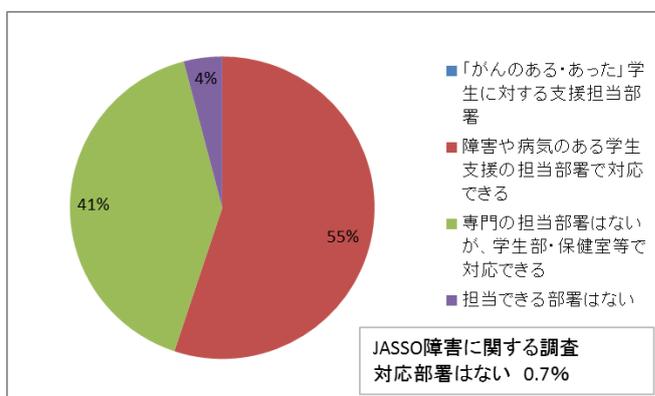


図2 「がんのある・あった」学生に対する支援担当部署 (JASSOの関連するデータの一部を記載)

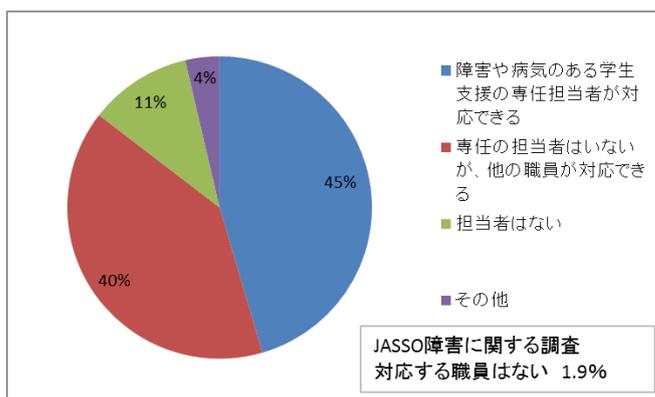


図3 「がんのある・あった」学生に対応する専任支援担当者 (JASSOの関連するデータの一部を記載)

過去に「がんのある・あった」学生への対応の有無は、「対応できる」と回答したのは42大学(うち、「実際に対応した」のは19大学)、その他は、「経験はないが検討する」等の回答であり、「経験ない」も含めて「対応できない」は4大学(7%)であった。

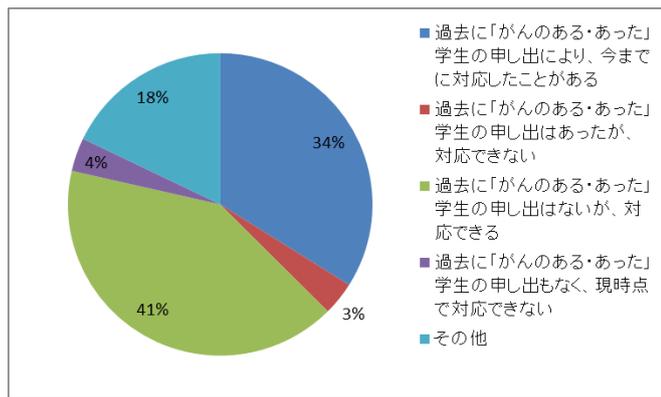


図4 今まで「がんのある・あった」学生への対応の有無

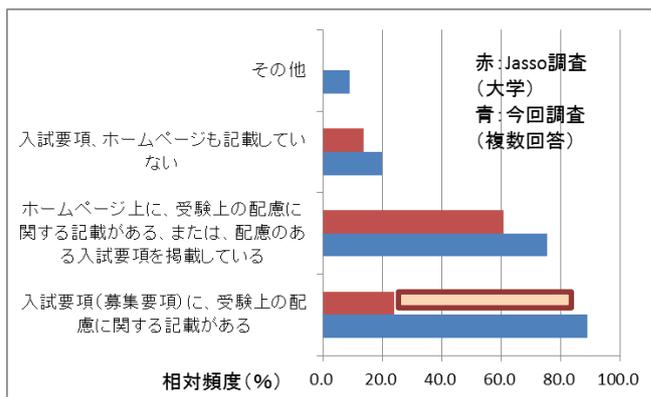


図6 入学者選抜における受験上の配慮の周知（今回の調査は複数回答）（JASSOの関連するデータの一部を記載、今回は複数回答であるので、比較のために「入試要項の記載」の項目に相当部分を積み重ねた）

2. がんのある・あった学生支援の活動や取組（就職支援、キャリア教育を含む）

「がんのある・あった」学生支援の活動や取組については、複数回答の結果を図5に示した。最も多いのは、「相談対応・懇談会等」が32校（71%）であり、JASSOの調査に比べて高い頻度であるが、他の項目は、いずれも低い頻度であった。

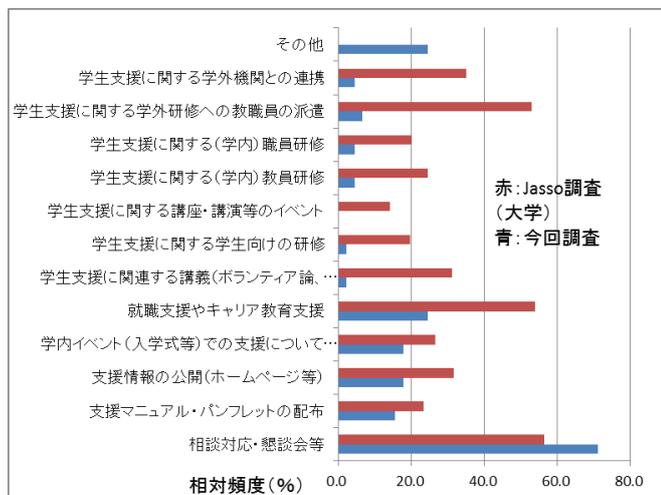


図5 「がんのある・あった」学生支援の活動や取組（複数回答）

3. がんのある・あった学生受け入れ（入試）に関する配慮

入学者選抜における受験上の配慮の周知については、図6で示した。「入試要項、ホームページも記載していない」は9校（11%）であるが、図7で示したように、入学者選抜における受験上の配慮について事前相談の受付方法については、「相談があっても対応できない」と回答した大学はなかった。

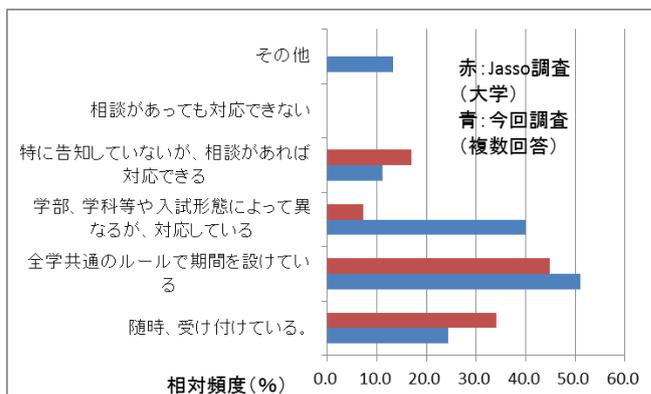


図7 入学者選抜における受験上の配慮について事前相談の受付方法（今回の調査は複数回答）

4. がんのある・あった学生支援に関する課題及び研究成果に対する期待

学生支援に関する課題・要望等については、図8で示したが、「特に課題はない」は5校（9%）、「がんのある・あった」学生支援に資する研究等への期待については図9に示したが、「特に期待はしていない（現在の情報で十分である）」は7校（13%）であった。

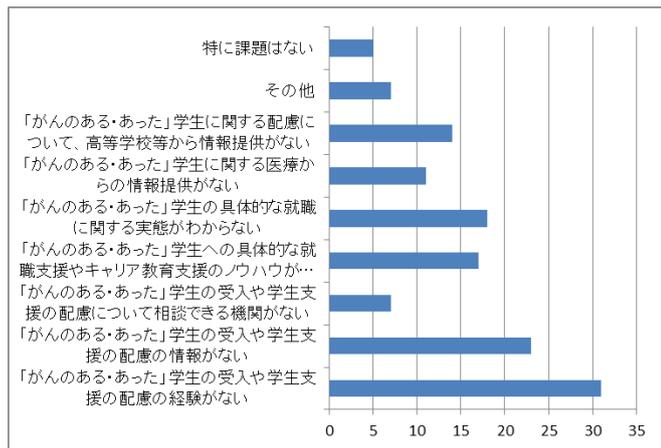


図8 「がんのある・あった」学生生活支援に関する課題・要望等について

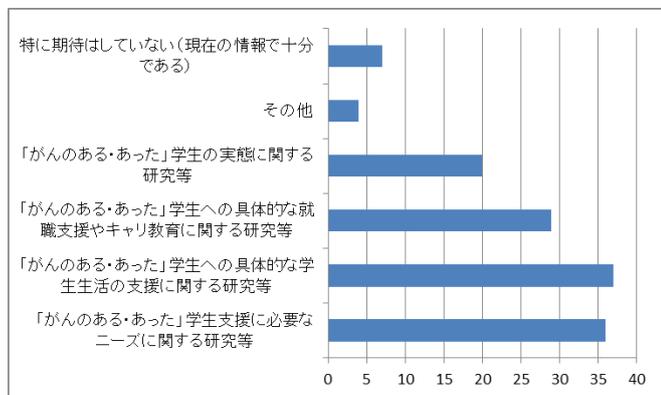


図9 「がんのある・あった」学生支援に資する研究等への期待（複数回答）～本研究所を含む研究機関への要望

IV. 考察

1. 日本学生支援機構（JASSO）の調査との比較

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）による「大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」（平成27年度、同機構学生生活部障害学生支援課）によると、障害学生が在籍している学校は880校であり、全校1,182校での割合は、74.5%（前年70.3%）、障害種別では、「病弱・虚弱」574校（前年399校）である。また、学校種別では、大学445校（全782校）[前年328校]、短大103校（全343校）[前年54校]、高等専門学校26校（全57校）[前年26校]であり、毎年増加傾向がみられる。学生数は、21,721人（全学生に占める割合は0.68%）、うち、上位の障害種は、病弱虚弱

6,462人（全障害学生の29.8%）、精神疾患5,889人（同、27.1%）、また、最近多いといわれる発達障害は3,442人（同、15.8%）であった。身体疾患及び精神疾患を合わせると、全障害学生中56.9%（全学生中0.39%）と過半数を超えている。

また、障害学生に対する就職支援、キャリア教育支援の実施校数は、567校（全1,182校）[前年404校（全1,185校）]、学校種別の内訳は、大学422校 [前年293校]、短大129校 [前年98校]、高等専門学校16校 [前年13校]である。障害学生に対する就職支援やキャリア教育支援の内容（全567校）の内訳は、「学外機関との連携」425校、「一般就職ガイダンス、セミナー等における配慮の実施」195校、「障害学生向けの就職ガイダンス、セミナー等の実施」76校、「インターシップ先、就職先の開拓、企業との連携」211校、「その他」146校であり、教育など生活支援だけではなく、卒業を視野に入れた支援の取組がみられている。

今回の調査では、「がんのあった・ある」学生を受け入れる入試時の配慮等は、JASSOの調査と比べ、他の障害や病気に関する対応とほぼ同じ対応が可能であるといえる。また、同様に、「がんのあった・ある」学生に対する支援の委員会や対応部署等は、JASSOの調査の比べると、全体として、やや少ないものの概ね対応が可能であり、図4の結果と合わせて、むしろ、事例がない、経験がないという記述がみられ、制度・学生の申し出が少ないと予想されるが、対応できるシステムはあると考えられる。

一方、「がんのある・あった」学生支援の活動や取組については、「相談対応」を除くと概ね少なく、図4の結果や自由記述で見られるように、実際的な部分は今後の実績に期待できるといえる。ただし、後述するように、高次脳機能障害や身体障害等、他の障害種と同様な支援が可能な場合と、法的な障害の定義には当たらないが、がん患者特有の支援の在り方など具体的なキャリア教育や就職支援について、対象人数が少ないために、研究機関や医療機関における知見や事例に基づく情報提供が必要であるということが推測される。

2. 今後の課題と期待

今回の「がんのある・あった」学生に関する調査は、国立大学のみを対象ではあり、個々の事例や学生からみた調査も必要であるが、現時点では、教育機関を対象とした同様な調査はわが国では報告されていないので、高等教育機関で学ぶ学生への支援に関する状況が初めて明らかになった調査と考えられる。他の障害や病気のある学生支援の調査結果をふまえて、その対応を利用して、「がんのある・あった」学生支援が可能ではないかと示唆できる。

しかしながら、すぐに対応できるのではなく、JASSOにある調査項目とは別に、今回の調査で追加した内容、結果の図8「がんのある・あった」学生生活支援に関する課題・要望等について、あるいは、図9「がんのある・あった」学生支援に資する研究等への期待（本研究所を含む研究機関への要望）で示したように、課題の認識ができたと期待できる一方で、具体的な課題解決に向けた情報提供等の期待があるといえる。

「小児がん患者の医療、教育、福祉の総合的な支援に関する研究」（国立特別支援教育総合研究所、2016）で示したように、諸外国に比べると、AYA世代のがん診療機関の集約化が進んでおらず、また、コーディネートを担当する職種が明確ではない日本の現状を考えると、AYA世代のがん患者への高等教育における学生支援は、さらに、就労支援等を見据えて、事例や知見の集約を行うと同時に、専門的な見地からの、具体的なQ&A作成や事例に関する相談等、医療機関からの情報提供も望まれる。さらに、AYA世代の医療体制構築では、医療的な視点に加えて、教育への支援等ができるような体制、例えば、諸外国のように集約した医療機関が様々なサポートをしているが、我が国の現状を考えると、同様に集約した医療機関が、支援・相談できる体制整備とともに、他の機関への支援を含めた集約化が望まれる。

謝辞

今回の調査で、協力いただいた国立大学における障害学生の支援にあたられる担当部署の方々に深謝する。また、研究成果の普及の機会に出会った、がんのサバイバーの方々、あるいは、お亡くなりになった方の保護者の方々から、様々な経験を聞く機会

を得たが、本調査研究の意義を考察する上で多大な示唆を頂いたことにも深く感謝する。

本報告が、今後のがんのある・あった学生支援の参考になれば幸いである。また、医療機関や研究機関が専門的な情報提供ができることを願う。

引用・参考文献

厚生労働省：がん対策基本法（平成18年6月23日法律第98号、最終改正：平成28年12月16日）

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H18/H18HO098.html>
（アクセス日、2017-12-01）

国立特別支援教育総合研究所（2016）. 共同研究「小児がん患者の医療、教育、福祉の総合的な支援に関する研究」（平成26～27年度）報告書。

国立特別支援教育総合研究所（2017）. 小児がんのある高校生等の教育に関する調査報告（平成29年3月）。

<http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/13006/j6-04houkoku-nihira.pdf>（アクセス日、2017-12-01）

国立特別支援教育総合研究所（2017）. 病気の子どもの教育支援ガイド. ジアース教育新社.

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）. 障害のある学生の修学支援に関する実態調査（平成27年）.

http://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/chosa/index.html（アクセス日、2017-12-01）